



企業名：有限会社 観光ビルはたなか
所在地：長崎県五島市中央町7-20
代表：畑中重徳
設立：1981年（創業1912年）
サイト：<https://www.hatanaka.cc/>

五島列島の可能性をお菓子に込め、全国へ。

伴走支援会社：デジマグラフ株式会社
伴走支援デザイナー：羽山潤一、村川マルチノ佑子



アイデンティティ/事業を突き動かす内発的動機

大正元年から五島列島で事業を展開し続け、1981年に「観光ビルはたなか」として会社を設立後も、五島列島の風土を落とし込んだお菓子を多くの方々に届けています。地域伝承の念仏踊りをテーマとし、70年以上愛され続けている「治安孝行（ちゃんこ）」をはじめ、名物の山をモチーフにした「鬼岳饅頭」、若者向けに「お招きつばきねこ」「天晴れパラモンちゃん」「鬼岳クグロフ」を製造・販売しています。現代表のお父上にあたる先々代がアイデアマンであり、五島列島の風土をお菓子に込め、食べてもらうことで島の魅力を伝えることができると考えました。

また現代表も、ご子息で専務の隆仁氏もパティシエであり、お菓子への追求に余念がありません。はたなかのアイデンティティは、食べておいしい五島列島の魅力発信です。



治安孝行（ちゃんこ）

ビジョン

はたなかのビジョンは創業時から変わっていません。それは、五島列島の魅力を多くの方々に届けること。そして、実際に島に足を運んでもらうことです。だからこそ、島民しか知らなかった鬼岳やつばきに目を向け、島の魅力をお菓子に「加工」して届けてきました。今後、はたなかのお菓子が長崎を代表する銘菓となり、全国でも知らない人はいない存在となることを考えています。

強みや特徴

はたなかの強みは、新商品を開発する力と熱意です。現代表や専務、専務の奥様もパティシエであり、自分たちでお菓子づくりができます。また、材料の配合やお菓子で使う金型へのこだわりも強く、新商品開発への飽くなき情熱を持ち続けます。そして、歴史の長さも強みの1つ。70年以上、治安孝行の味や中身を変えず、多くのファンに親しまれています。



五島列島・福江島の鬼岳

経営課題

はたなかのお菓子は発売以来、現在に至るまで味も中身も変わっていません。それはある時期までパッケージも同様でした。ところが年々売り上げを落とし、何か解決策を考えねばと思っていた頃、催事のバイヤーの方から新しいお菓子が欲しいと言われたことから新商品の必要性を感じ、中小企業診断士の今村氏に相談。経営の視点で捉えた時、パッケージを見直すことの重要性に気づきます。それは単なるデザインの変更ではなく、パッケージをリニューアルすることで賞味期限を伸ばすことに繋がります。当時はお菓子を一つずつ手作業で紙包装にしており、その作業負担も課題となっていました。また、外箱にはバーコードの掲載もなかったため、今の時代に必要なパッケージへとリニューアルすることに。今村氏の提案もあり、長崎で活動するデザイン会社「デジマグラフ株式会社」へ依頼することになりました。

デザイン経営での解決策

「長崎県民にとってはポピュラーなお菓子であり、歴史もあります。そこに手を入れることは緊張しましたが、同時にやりがいも感じました」と語るデジマグラフの羽山氏と村川氏。

商品それぞれを訴求するのではなく、全ての商品をはたなかのブランドとして統一して見せていくことに。パッケージをバイカラーに変更し、デザイン構成を統一したことで、商品群として見せることができました。意識したことはこれまでの商品の印象とかけ離れないようにすること。また箱の規格も見直し、詰め合わせができるように整えました。個包装の仕方も工夫し、賞味期限が伸びたことで、有名スーパーのバイヤーをはじめ、様々な業者に興味を持ってもらい、新規契約の獲得に繋がりました。専務が手がけた若者向けの新商品「お招きつばきねこ」「天晴れバラモンちゃん」「鬼岳クグロフ」は見た目も味も若者に響き、SNSへ投稿され、全国へ発信されています。

アウトプット



お招きつばきねこ



商品群として見せるためにデザイン構成を統一

これから

はたなかのお菓子が知名度を獲得することで、五島列島の魅力発信に繋がりたいと語る重徳氏。そのために、今後はスタッフが働く環境づくりに注力するそうです。また、「観光ビル」と会社名に冠している通り、お菓子づくりが見学でき、ここでしか得られない体験ができる、新たな付加価値を提供できる場を目指したいとのこと。これからは全国へお菓子を届けつつ、五島列島でプレミアムな体験ができるスポットへ。はたなかのおいしい挑戦は止まりません。